公開特許· 実用

【名称】携带用通信装置

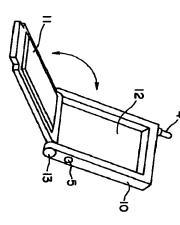
特開平11-15500

1	5)									排件
							中母題出	尧明/考案者		出題/権利者	審查/評価者請求 未
							特置平9-335072			ミツミ電機株式会社	未 請求項/発明の数
							平成 9年(1997)11月19日			ミツミ電機株式会社(東京都調布市国領町8丁目8番地	の数 5 (公報 4頁、抄録 3頁)
※最終頁で続へ	HO4N 1/00 %		H04W 1/02	P1	H04W 1/00	7/38	H04Q 7/32	G06K 17/00	H04N 1/02	Int. Cl. 6 機則記号	公開日 平成11年(1999) 8月 8日

【発明の属する技術分野】本発明は、デジタル信号の自 動受信機能を僻えた携帯用通信装置に関する。 (57) 【烟杏]

身を自動的に受信および記憶し、後にP Cで読み取るこ とかたちるようにした携帯用通信装置を提供する。 【解決手段】 自動受信機能を有する電話回路部 1 本発明は、データ通信によるデジタル信

た本体部10と、少なへとも問記インターフェース部を内裁し、問記パーンナルコンにュータのカードスロット21に被導されるカード部11とを備え、問記本体部は問記カード部を収容する凹部12を有し、問記カード部 **備えた携帯用通信装置であり、前記電話回路部を内蔵し** と、この電話回路部で受信された信号を記憶する記憶部 2 と、この記憶部に記憶された信号を外部のパーソナル ロンアュータ 20 に出力するインターフェース 得3 とを は前記本体部に対し展開可能に軸支(13)された構造



【特罪職長の爲囲】

「請求項1] 自動受信機能を有する電話回路部と

この電話回路部で受信された信号を記憶する記憶部

ンピュータに出力するインターフェース部とを備えたこ とを特徴とする携帯用通信装質。 この記憶部に記憶された信号を外部のパーソナルコ

【請求項2】 前記鐵話回路部は、前記パーソナルロンドュータから起動される発信機能を有することを特 敬とする頭求項1の携帯用通信装置。

前記電話回路部を内蔵した本体部と

パーソナルコンドュータのカードスロットに役替される カード即とを備え、 少なへとも前記インターフェース部を内蔵し、前記

带用通信装置 れた構造であることを特徴とする請求項1または2の携 前記本体部は前記カード部を収容する四部を有し、前記カード部は前記本体部に対し展開可能に軸支さ

されていることを特徴とする顔求項3の携帯用通信装置 **請求項4**) 前記記憶部は、前記カード部に内蔵

> 【野块成5】 前記本体部は、前記電話回路部に対

する音声信号の入出力に必要なジャックを備えることを 特徴とする請求項3の携帯用通信装置。 【発明の実施の形態】以下、図面に示した実施形態を参照して、本発明を詳細に説明する。図1~図4は、本発明を詳細に説明する。図1~図4は、本発 部1で受信された信号を記憶する記憶部(例えば、RAM)、3はこの記憶部2に記憶された信号を外部のバー 明の一実施形態を示す構成図である。図4において、1 は自動受信機能を有する電話回路部、2はこの電話回路 焼された音声の入出カ用ジャックである。電話回路部 1 えばPCMCIAインターフェース)、 4 は低語回路部 1に接続された送受信アンテナ、5は電話回路部1に接 / ナルロンだュータに出力するインターフェース部(密 前記パーソナルコンピュータから起動される発信機

ように、電話回路部1を内蔵した本体部10と、少なくともインターフェース部3を内蔵し、パーンナルコンと 本党明の機構的な構成としては、図1~図3に示す

> カード部11とを備え、本体部10はカード部11を収容する凹部12を有し、カード部11は本体部10に対 節10は、電話回路部1に対する音声信号の入出力に必 し触13で展開可能に軸支された構造である。記憶部2 例えばカード部11に内蔵されている。また、本体 /イヤホーン接続用のジャック5を備える。

内に収容し、インターフェース部3の端子を保護する。この状態でもアンテナ4による受信機能は働き、替信があれば電話回路部1は着信音を発することなく自動受信 本発明の携帯用通信装置は、携帯時は図3に示すよ に、カード部11を折り畳んで本体部10の凹部12

」という内容である。 ため、御用の方はピーという音の後に電話番号を押して えば「こちらは○○会社の△△です。これは自動警信の アナログの音声信号源かデジタルの信号源かを判断し、 音声信号源の場合は応答メッセージを記録部 2 から読出 下さい(メッセージを入れて下さい)。 ご連絡致します **して音声合成して応答する。この応答メッセージは、例** 自動受信モードに入ると、電話回路部1は相手方が

るデジタル信号を記憶部2に記憶する。 ようなデジタル信号源と判断したときは、その後受信す は電話番号があれば、電話回路部 1 はそれを、記憶部 2 に記憶する。一方、電話回路部 1 が相手方をEメールの これに対応して相手方が発声したメッセージあるい

、カード部11を本体部10から開き、更に図2のように、カード部11をPC20のカードスロット21に縛入する。そして、PC20のディスプレイ2とLで記憶に、カーを開上した内容を表示する。記憶部2から観みした内容が電話等号のデジタル信号であれば、それをフェントに変換して表示する。この場合、PC20に住所 された情報が表示される。 **最等が記憶されていれば、表示された電話番号から検索** この携帯用通信装置の使用者は、図1に示すように

毋適結局にはジャック 5 にマイクなおヘッドホーン 話番号を入力し、電話回路部1を経由して発信する。音 入して会話する。 送信する場合は、PC20のキーボード23から自

> きる。また、自動物値であるため、締信音で周囲に迷惑をかけることもない。更に、公共の専団内で義認を切るをかけることもない。更に、公共の専団内で義認を切るを更もない。加えて、記憶節2の容量を大きくずれば、必要もない。加えて、記憶節2の容量を大きくずれば、 あるため、携帯電話に必要なテンキー等のキーや、磐間を知らせるパイプレータ、通話用のマイクおよびスピーン、文字表待の液晶デバイス等が不要になり、小型化で **電池が消耗しても、PCから供給できる利点もある。** 記憶装置としても使用できる。また、携帯用通信装置の 本発明の携帯用通信装置であれば、自動着信方式で

特関平11-155003(2)

のカード部展開状態の斜視図である。 【図2】図1の通信装置のPCとの接続状態の斜模 【図1】本発明の一実施形態を示す携帯用通信装置

【図面の簡単な説明】

図である。

図である

【図3】図1の通信装置のカード部収容状態の斜視

図である 【図4】図1の通信装置の内部構成を示すプロック

【符号の説明】

フェース) 送受僧アンテナ

インターフェース段(PCMCIAインター

記蔵等 (RAM)

自然回路的

シャック

本体部 ガード的

区野 バーソナルコンピュータ (PC)

ディスプレイ カードスロット

[図2]

PEST AVAILABLE COPY

注)本抄録の書誌的事項は初期登録時のデータで作成されています。

R A M

158 1

特開平11-155003(3)